

製品保証期間：1年間

保証内容の詳細については添付の「製品保証規定」カードをお読みください。
また最新の情報については弊社ウェブサイト
(www.minoura.jp) を随時ご参照ください。

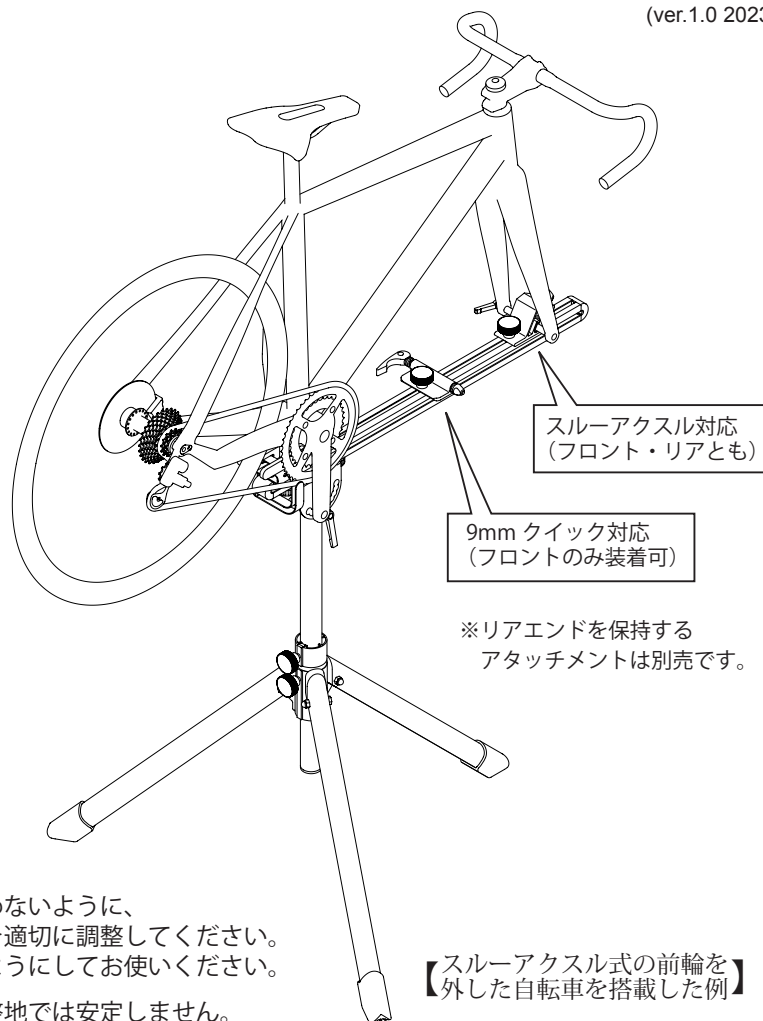
適合フレーム

前フォーク前輪取り付け構造：

ハブナット式・9mm クイック式・
スルーアクスル式

リアエンド後輪取付構造：

スルーアクスル式



※リアエンドを保持する
アタッチメントは別売です。

【スルーアクスル式の前輪を
外した自転車を搭載した例】

注意していただきたいこと

- RS-1850 は、通常の2輪スポーツ自転車の前輪または後輪を取り外した状態で搭載し、軽整備などを行なうためのスタンドです。
ホイールベースの長い車体や重量の重いもの、また重整備には不向きです。
- 自転車を搭載する際は荷重の偏りにより転倒してしまわないように、スライドアーム自体を前後に移動させて重量バランスを適切に調整してください。
またスライドアームは三脚の間ではなく、真上に来るようにしてお使いください。
- 必ず平坦で水平な場所でお使いください。傾斜地や不整地では安定しません。
また三脚はすべていっぱい開いた状態でお使いください。
- 搭載できる自転車は、前輪の場合はハブ幅が100mmで、前フォークの前輪取付構造がハブナット式、9mmクイック式、あるいは12mmか15mmのスルーアクスル式のものに限られます。(スルーアクスル用前フォーク受けは異なる幅のものでもマウントできます)
ハブ幅74mmの小径車や20mmスルーアクスルのDH車、一部のブーストハブなど、これら以外の寸法や規格の自転車は搭載できません。
後輪の場合は、スルーアクスル式であればどんなサイズでも装着可能です。
- 油圧式ディスクブレーキ装着者の場合は、車輪を抜いてからは絶対にブレーキレバーを握らないでください。パッドが張り付いてしまい引き剥がせなくなってしまいます。これを防止するため先にパッドの間に専用のスペーサを挿入してからお使いください。
- RS-1850 を移動させるときは、上部構造だけで持ち上げないでください。不意に支柱が抜けてしまうおそれがあり危険です。
持ち運ぶ際は必ず下側の三脚部分ごと持ち上げて移動させてください。
- ボトムブラケットをBB受けに載せる姿で自転車を保持します。電動変速機のバッテリーやディレーラケーブルは逃げるような形状には設計してありますが完全ではありません。車種によってはうまく搭載できない場合もあります。悪しからずご了承ください。
- 自転車を搭載した状態で水平に回転させることができるという点を利用して洗車スタンドとしても用いることができますが、一部には水に濡れると錆びてしまう鉄製の部品が使われています。洗車の後にはできるだけ早いうちに水気を切り、しっかりと乾燥させてから保管してください。
- 不意の自転車の脱落を防止するため、付属のベルクロバンドを使って車体をRS-1850に縛り付けた状態で使用することを強くお勧めします。

問い合わせ先

もし何かわからないことがあった場合は、まずお買い求めになった販売店にお問い合わせください。
もしそこで十分な情報やサービスを受けられない場合に限り、下記までお問い合わせください。

株式会社 箕浦 (製造元)

〒503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1
Phone (0584) 27-3131 Fax (0584) 27-7505
Mail minoura@minoura.jp (営業)
infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)
Web www.minoura.jp

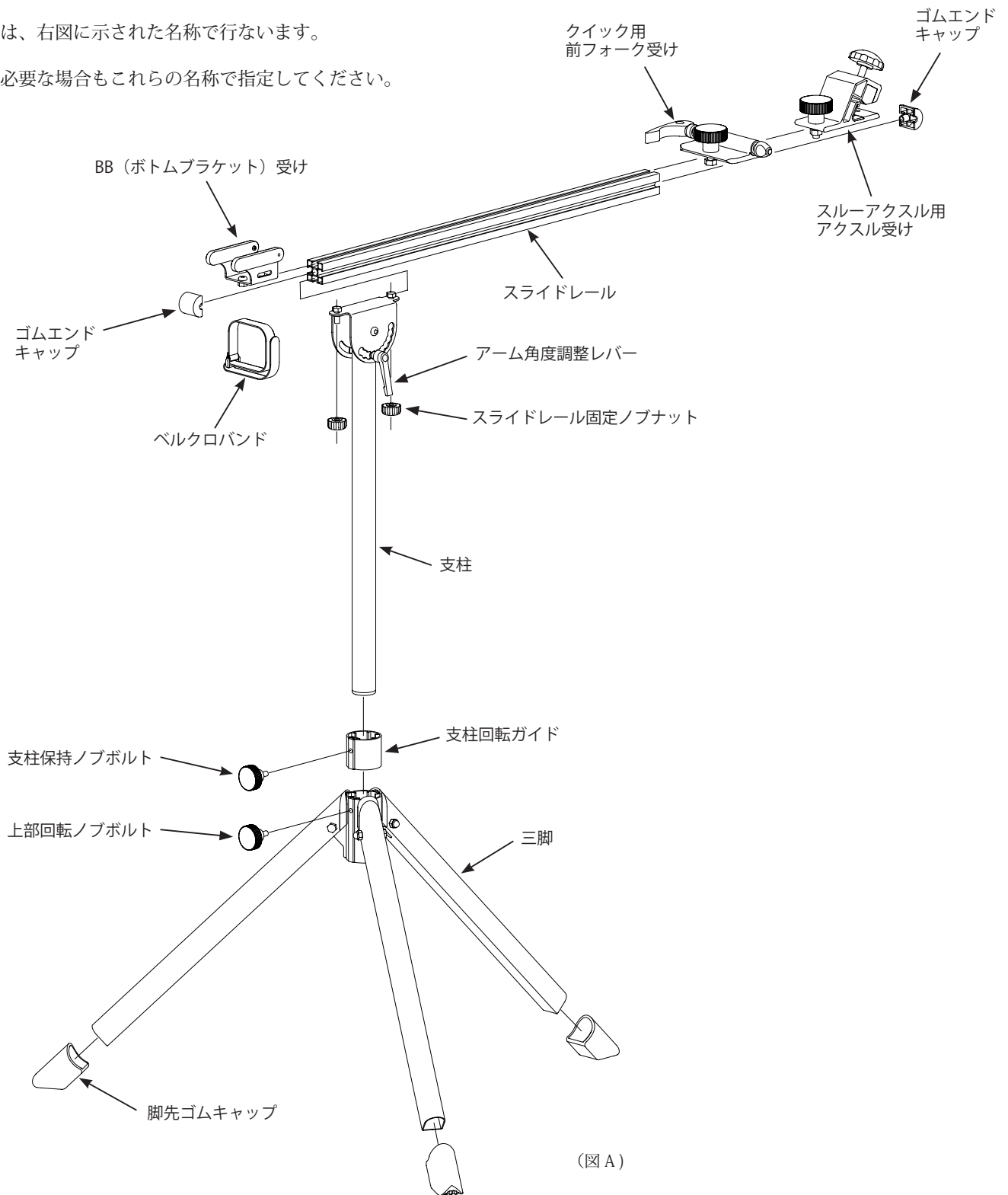
株式会社 フカヤ (販売元)

〒460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37-3F
Phone (052) 228-8910
Fax (052) 228-8917
Web www.fukaya-nagoya.co.jp

各部の名称

以下の説明は、右図に示された名称で行ないます。

補修部品が必要な場合もこれらの名称で指定してください。



上部構造の水平回転について

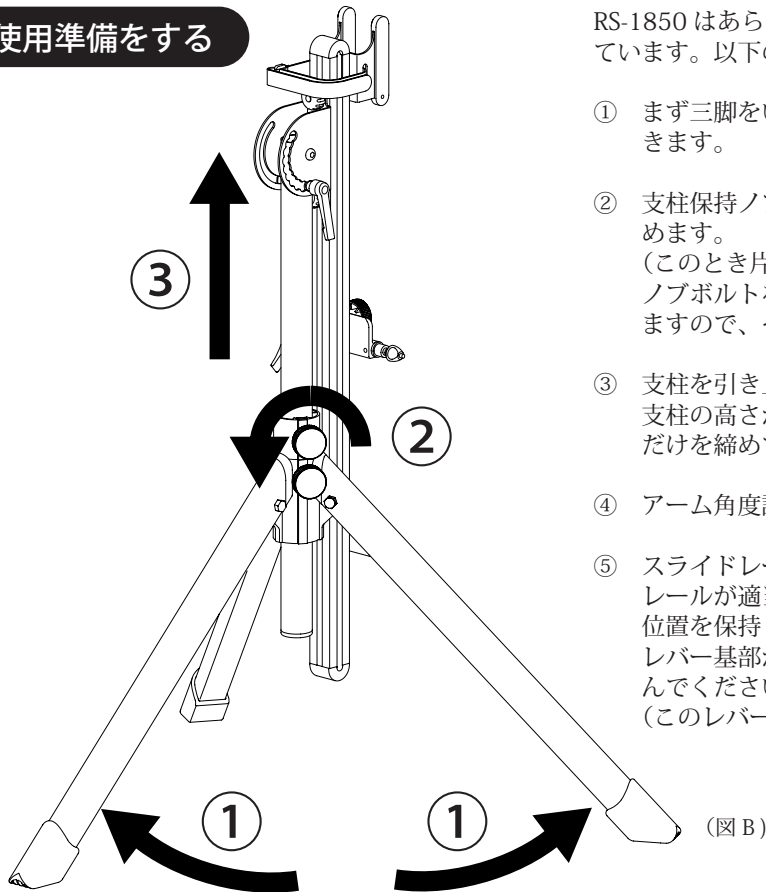
側面にあるノブボルトのうち下側にある「上部回転ノブボルト」だけを緩めると、全体の高さはそのままに、搭載した自転車ごと上部構造のみ水平回転させることができます。これは、立ち位置を変えないままで自転車の左右両面の整備を行ったり、自転車を洗車する場合などに便利です。

上側の「支柱保持ノブボルト」まで緩めてしまうと、自転車が支柱ごと急に下がってきってしまうので注意してください。緩めるのは「下側にあるノブボルト」だけです。

RS-1850 の使用準備をする

RS-1850 はあらかじめほぼ組み立てられた状態で梱包されています。以下の手順で展開し使用準備をします。

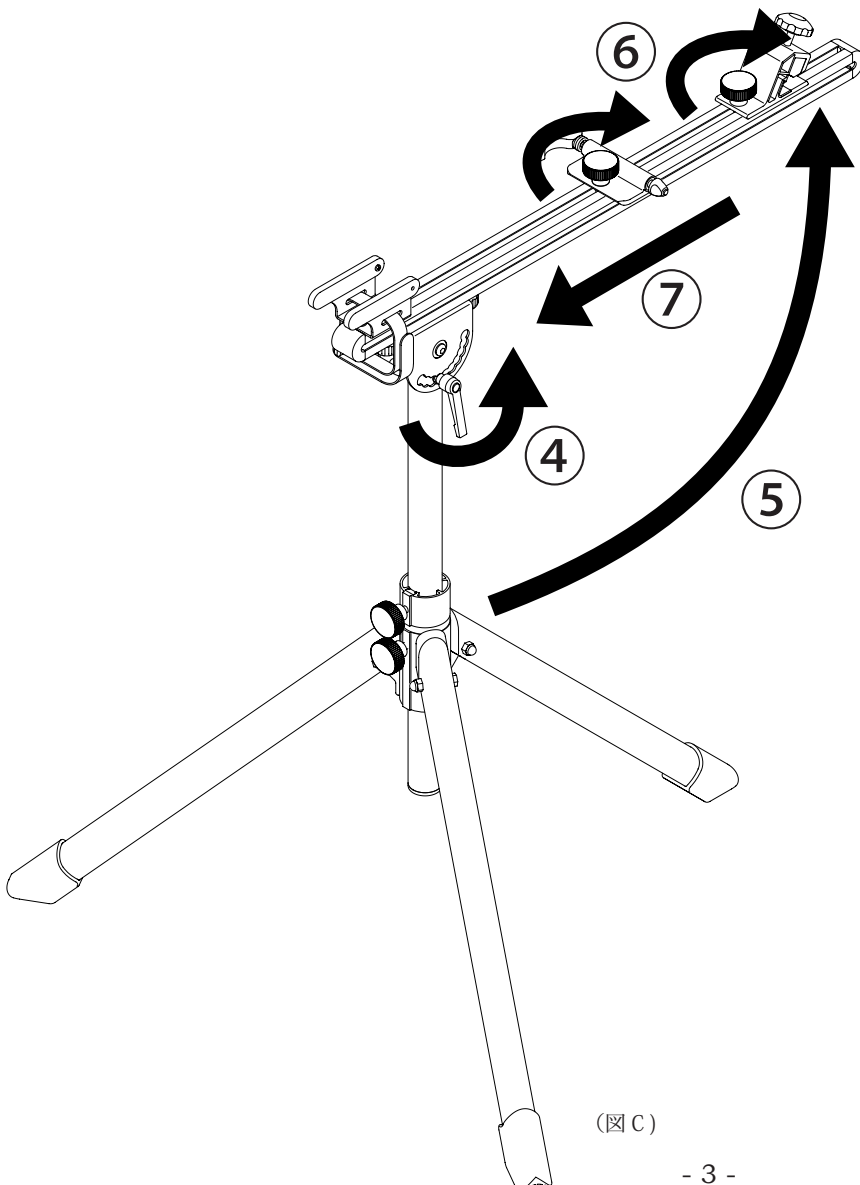
- ① まず三脚をいっばいに開き、水平で平坦な床の上に置きます。
- ② 支柱保持ノブボルトと上部回転ノブボルトの両方を緩めます。
(このとき片手で上部を持ってください。2つめのノブボルトを緩めた瞬間に支柱が自重で落下していきますので、それを防ぐためです)
- ③ 支柱を引き上げます。
支柱の高さが決まったら、上側の支柱保持ノブボルトだけを締めてその位置を保持します。
- ④ アーム角度調整レバーを緩めます。
- ⑤ スライドレールを回転させて持ち上げます。
レールが適当な角度になったら、レバーを締めてその位置を保持します。
レバー基部がすっぽりと孔の中に入るような位置を選んでください。孔と孔との間では保持できません。
(このレバーはレバー部だけを引くことで、ねじの締付け具合は変えることなくレバーだけを使いやすく邪魔にならない任意の角度にセットすることができる構造となっています)



- ⑥ 前フォーク受けは 90 度捻って梱包されていますので、ノブボルトを緩めてレールと直角にします。
台座裏側中央に位置決め用のボルトがありますので、これをスライドレールの中央の溝に入れば、それできちんと直角が出ます。
(位置はあとで実際に自転車を搭載する時に決めますので、今は仮位置のまま構いません)

- ⑦ スライドレールは、梱包時にはいちばん端の位置にセットしてありますが、このままでは自転車を搭載した際に荷重が偏りすぎて転倒してしまう恐れがありますので、数センチほど下げます。
スライドレール固定ノブナットを両方とも軽く緩めて (大きく緩めてしまうと脱落する恐れがあります) レールを後方にスライドさせます。適当な位置になったらノブナットを締めて保持します。
自転車を搭載してからでもスライドはできます。最大限安定する位置で使用してください。

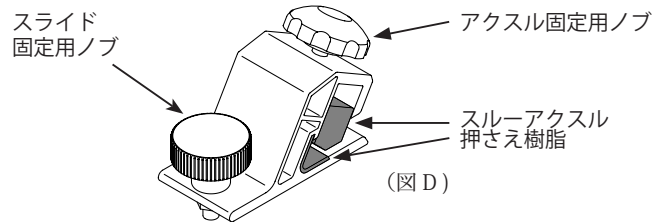
以上で使用準備が整いました。



(図 C)

スルーアクスル用アクスル受けについて

このホルダはスルーアクスル式専用のものになります。
幅に制限がありませんから、前輪だけでなく後輪でも使えます。
クイックリリース式など他のタイプのものには使えませんので
ご注意ください。

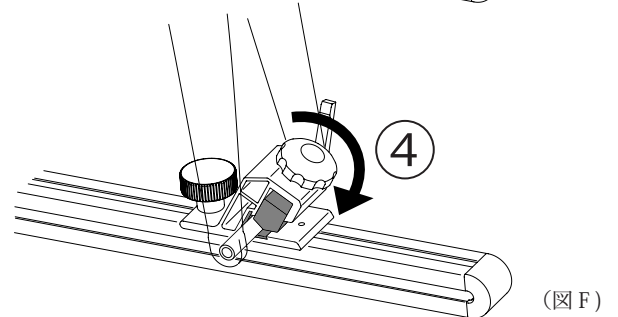
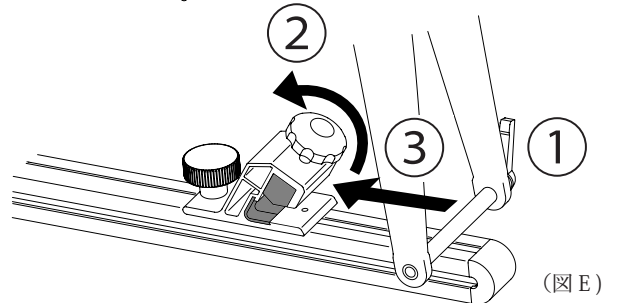


前輪または後輪アクスルで保持するには

- ① 前輪の場合は、車輪を外しアクスルだけを前フォークにねじ込んで取り付けておきます。(図 E)

後輪の場合は、同じく後輪を外して、アクスルはフレームエンドにねじ込んでおきます。

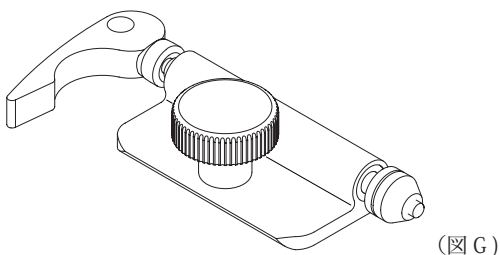
- ② アクスル固定ノブを十分に緩め、押さえ樹脂の間隔を広げます。
- ③ アクスルを前方から、押さえ樹脂の間に挿入します。
- ④ ノブを締めて、上下の樹脂でアクスルをがたつきのないよう挟み込んで保持します。(図 F)



クイック用前フォーク受けについて

クイック用前フォーク受けは、通常の 9mm クイックリリースだけでなく、15mm スルーアクスルも取り付けが可能な構造になっていますが、RS-1850 ではスルーアクスルはすべて「スルーアクスル用前フォーク受け」を使用することをお勧めしています。
(そのためここでは敢えて 15mm スルーアクスル対応への組み替え方については解説しません)

前フォーク受けに装着されているクイックリリースは特殊なワイドストロークタイプとなっています。(図 G)
前フォーク下端にあるホイール脱落防止爪のせいで、通常のクイックだとナットまで緩めなければならないものが、これだとレバー操作だけで大きく開くため、ナットを緩める操作が不要、あるいは大幅に少なくできます。



- ① まず前フォーク受けのクイックレバーを開き、必要に応じてナットも少し緩めておきます。
- ② 前フォーク受けの両端に前フォーク先端をしっかりと差し込み、レバーを閉じて強くクランプします。レバーを倒し始めて 90 度くらい動かしたときに抵抗が感じられるようにナットで調整します。ナットを調整している間はレバーは開いておきます。



レバーを閉じた状態でナットを回そうとしたり、ナットを締めてからレバーをぐるぐる回して締め付けようとはしないでください。
それらは正しいクイックリリースの使い方ではありません。



前フォーク自体の形状により前フォーク受け本体部に前フォークが当たってしまう場合は、前フォーク受けを 180 度回して反対向きに取り付けて回避します。

RS-1850 に自転車を搭載する

1

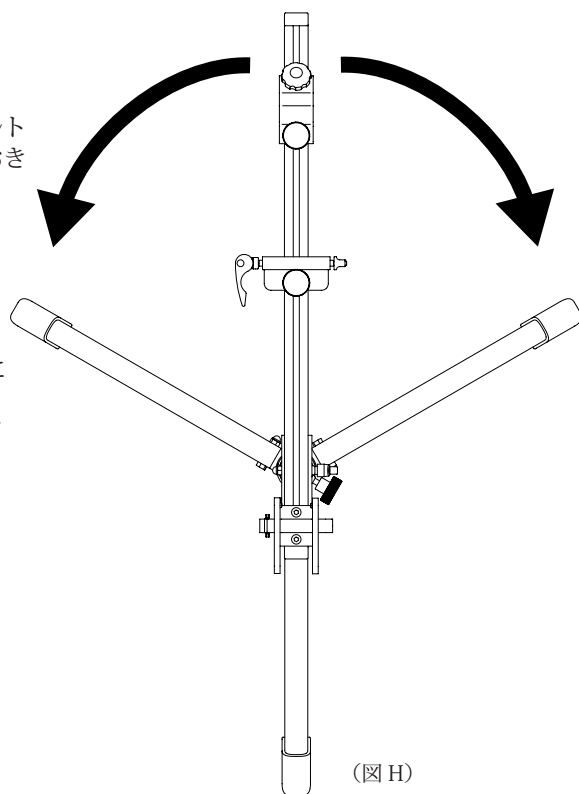
まず三脚上部にある2つのノブボルトのうち下側の上部回転ノブボルトを少し緩めて、スライドレールが自由に水平回転できるようにしておきます。

自転車をBB受けの上に置いた際に滑り落ちてしまわないように、スライドレールは最初はできるだけ水平に近くしておくことが望ましいです。

前輪を外すと自転車は前後で重量がアンバランスになり、RS-1850に搭載した際は後ろ側に荷重が多くかかるようになります。その重くなった側を三脚の脚1本でしっかり支えるように、スライドレールを回して三脚の脚の真上に来るようにして使います。(図H)



重くなっている後輪が三脚の脚と脚との間に来るようにして使うと、アンバランスになった重量のためRS-1850は自転車ごと転倒してしまいます。作業のため自転車を水平回転させる必要があるときは、転倒させてしまわないように自転車を片手で保持しながら行なうようにしてください。



(図H)

前輪アクスルまたは前フォークで保持する

2

RS-1850に搭載される自転車は、前フォークはアクスル等で固定されていますが、ボトムブラケットはBB受けの上にただ載っているだけになります。そのため、車体後部を左右に大きく振るような作業は行わないようにしてください。ずり落ちてしまいます。

まず前輪を外した自転車のボトムブラケットをBB受けに静かに下ろします。続いて、それを支点にして車体前部を下げていきます。

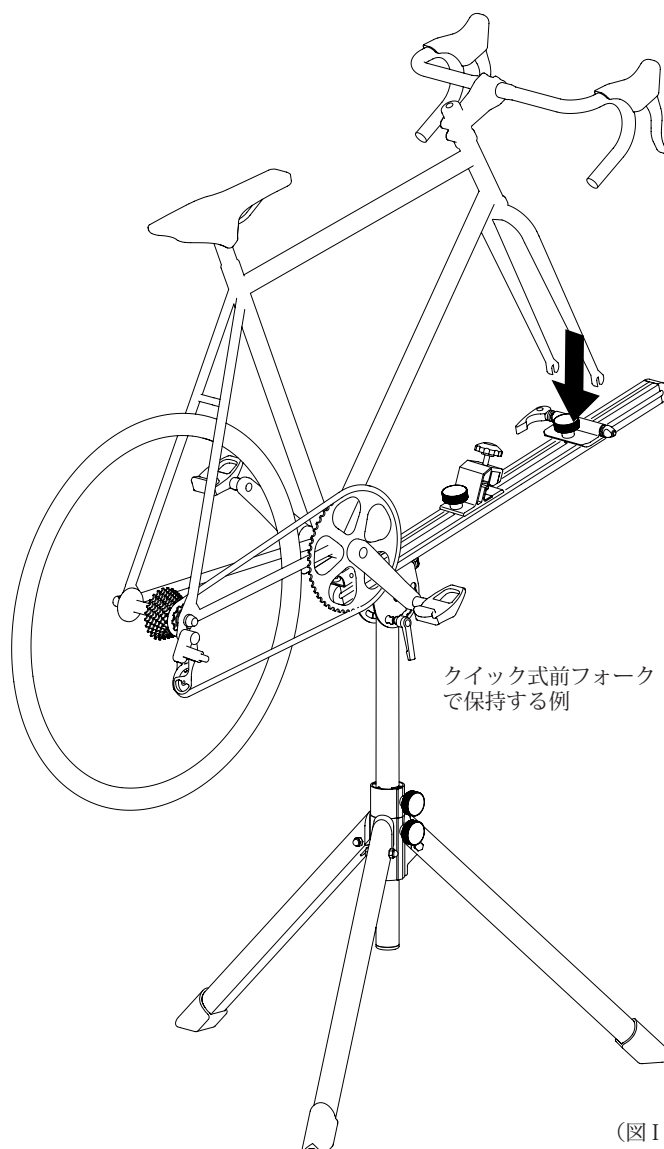
3

スルーアクスル式の場合は、上下にあるスルーアクスル押さえ樹脂でアクスルパイプを挟み込んで保持します。そのためいったんアクスル受けを下げておいてからアクスルをアクスル受けの中にくぐらせ、もう一度アクスル受けを前にずらしします。アクスル固定ノブを締めて、アクスルを上下の樹脂で挟み込んで保持します。位置が決まったら、スライド固定ノブを締めて固定しておきます。

クイック式の場合は、前フォーク先端を前フォーク受けの両端にしっかりとめ込み、クランプします。(図I) 固定方法については前ページを参照してください。



油圧式ディスクブレーキ車では車輪を外してからは絶対にブレーキレバーは握らないでください。パッドが張り付いたまま戻らなくなります。機械式ディスクブレーキ車では握っても構いません。



(図I)

後輪アクスルで保持する

4

RS-1850 に標準のスルーアクスル受けは、12mm 径の前輪だけでなく後輪も保持できる構造になっています。

自転車の後輪を取り外し、スルーアクスルだけをフレームのリアエンドにねじ込んでおきます。

スライドレール上のスルーアクスル受けをいったん中心側にずらしておきます。

自転車のボトムブラケットを BB 受けの上に置いてから、車体後部を静かに下ろしていきます。

スルーアクスルが上下の押さえ樹脂の間に入るようにアクスル受けを動かし、アクスル固定用ノブを締めて保持します。

最後にスライド固定用ノブを締めて位置を固定します。

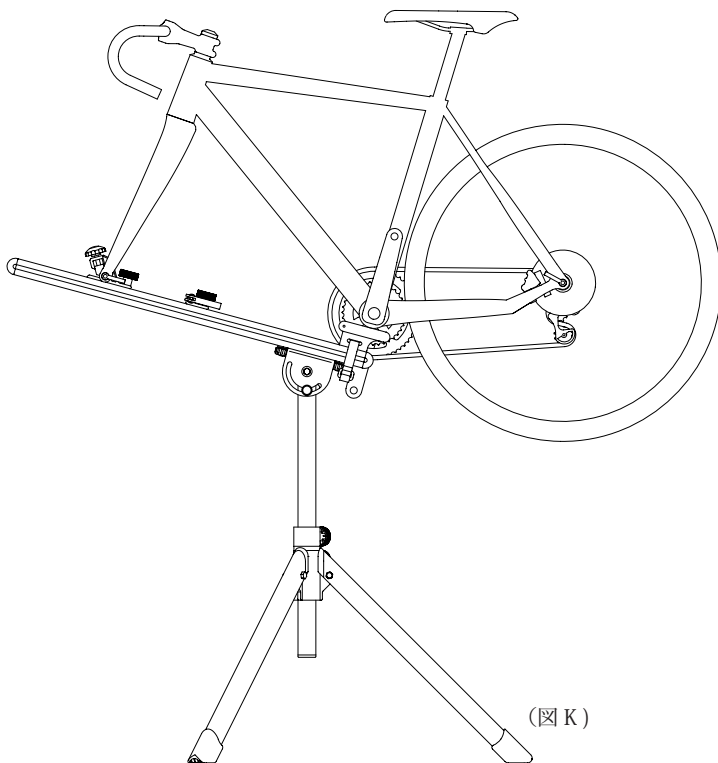


(図 J)

5

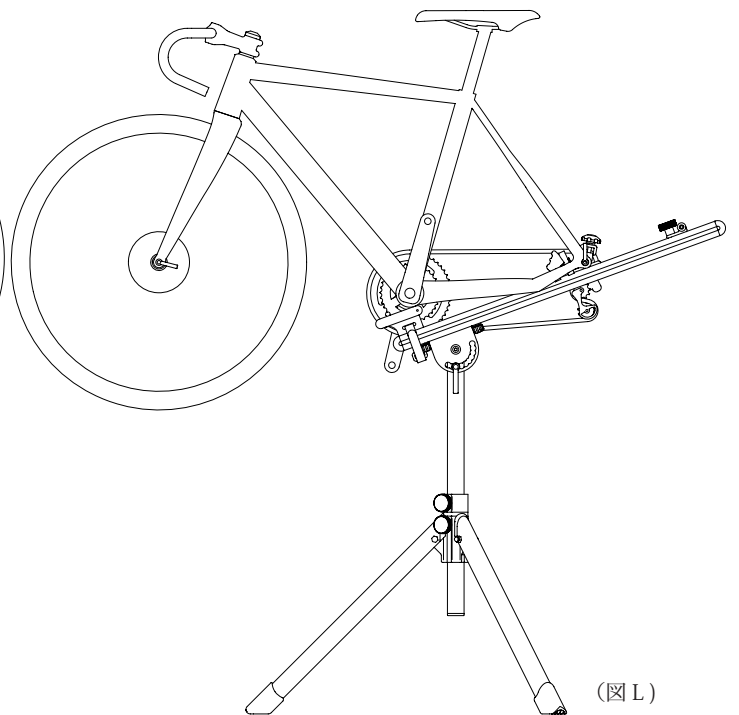
前後いずれの場合も、付属のベルクロテープでダウンチューブをスライドアームに縛り付けて、不意の自転車の脱落を防止してお使いください。

前輪アクスルで保持している状態



(図 K)

後輪アクスルで保持している状態



(図 L)



スライドレールは必ず、荷重が大きくかかっている側（一般的には車輪が残っている方）が三脚のいずれかの脚の真上に来るように、回転させて位置決めしてください。
またスライドレール自体を前後に動かして転倒しないように重量バランスをうまく取ってください。

リアエンド受け（別売）について

標準状態の RS-1850 では装着ができない「クイック式の後輪ハブ軸車」で使用するには、別売の「リアエンド受け」を使います。

自転車のリアエンドの左右の内幅には寸法の規格があります。

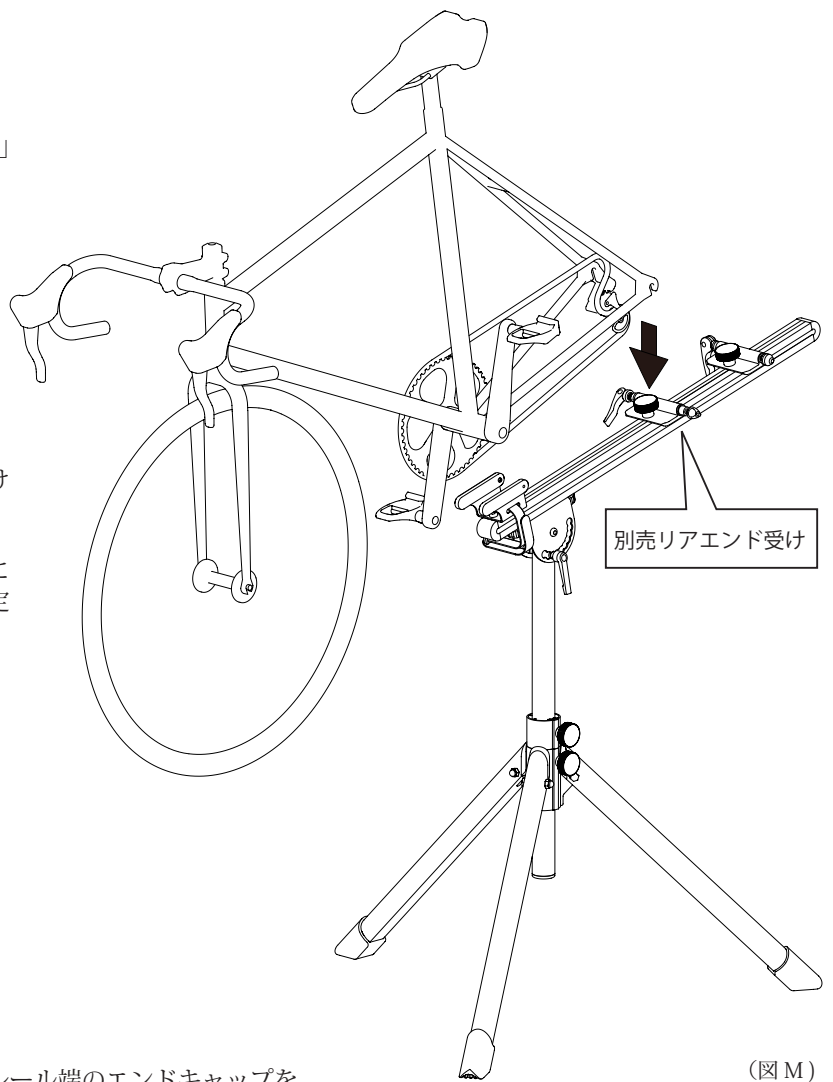
リアエンド受けはクイック用前フォーク受けの幅広のような形状のもので、両端に差し替え可能なブッシュが備わっており、それを組み替えることで 120～135mm の 4 種類のエンド幅に対応することができるようになります。

後輪のクイックレリーズを取り外し、このリアエンド受けに通し、ナットも軽くねじ込んでおきます。

フレームの後端の切り欠き部分をリアエンド受けの両端にしっかりと押し込み、クイックレリーズで締め付けて固定します。



エンド幅は必ずお使いの自転車に正しく合わせてください。サイズが合わないまま使用すると、フレームを变形させてしまう恐れがあります。

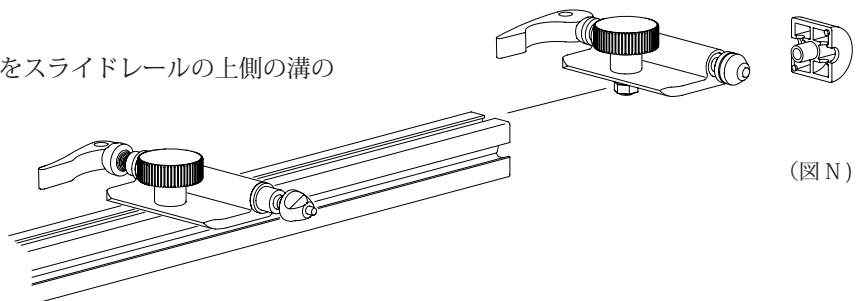


(図 M)

リアエンド受けをスライドレールに装着するには、まずレール端のエンドキャップを引き抜きます。(図 N)

リアエンド受けのスライド固定用ノブを緩め、ナットをスライドレールの上側の溝の中に通します。

任意の位置にまで動かしたら、ノブを締めて保持します。

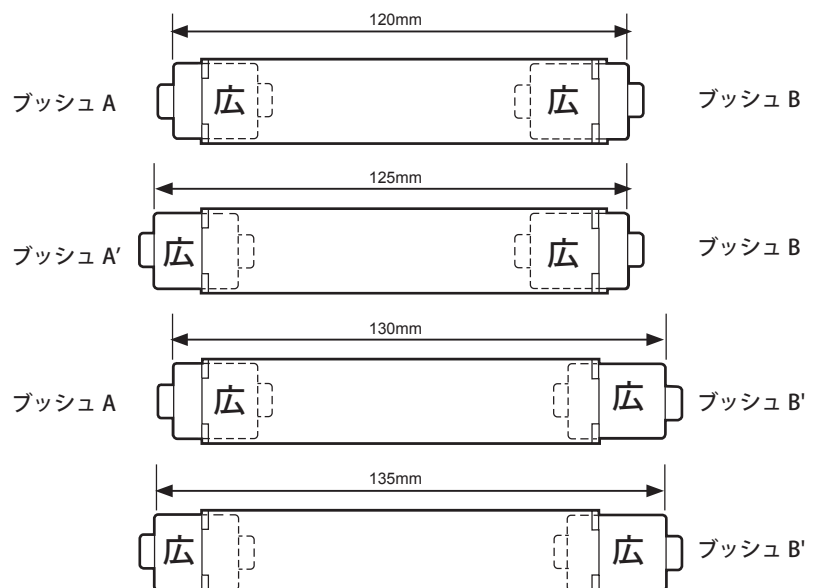


(図 N)

ブッシュの入れ替え

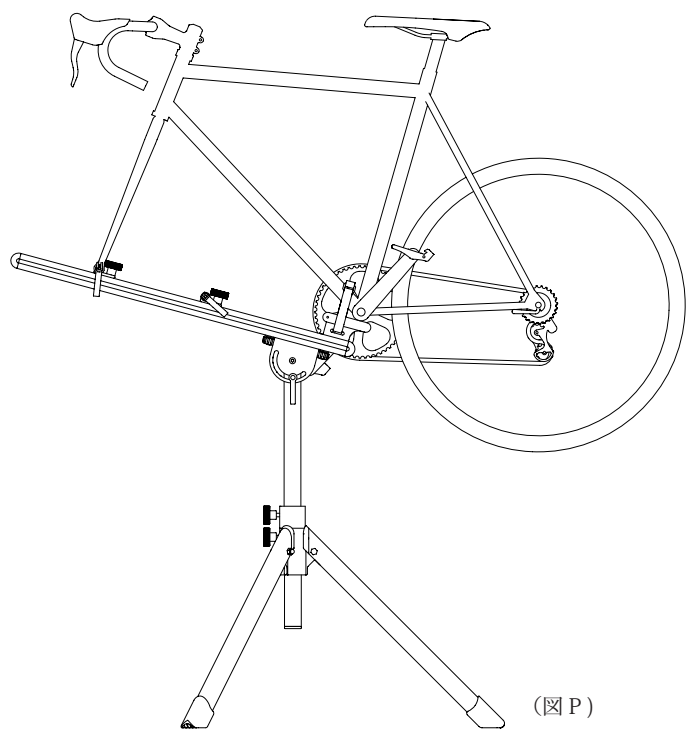
リアエンド受けの両端のアルミブッシュにはそれぞれに幅の広い側と狭い側とがあります。そのアルミブッシュをパイプに挿入する方向の組み合わせで、4 種類のサイズに対応させます。(図 O)

ブッシュはあらかじめ 130mm 用に組み込まれています。それ以外のサイズに変更する際は、裏面のイモネジを緩めてからブッシュの抜き差しを行なってください。



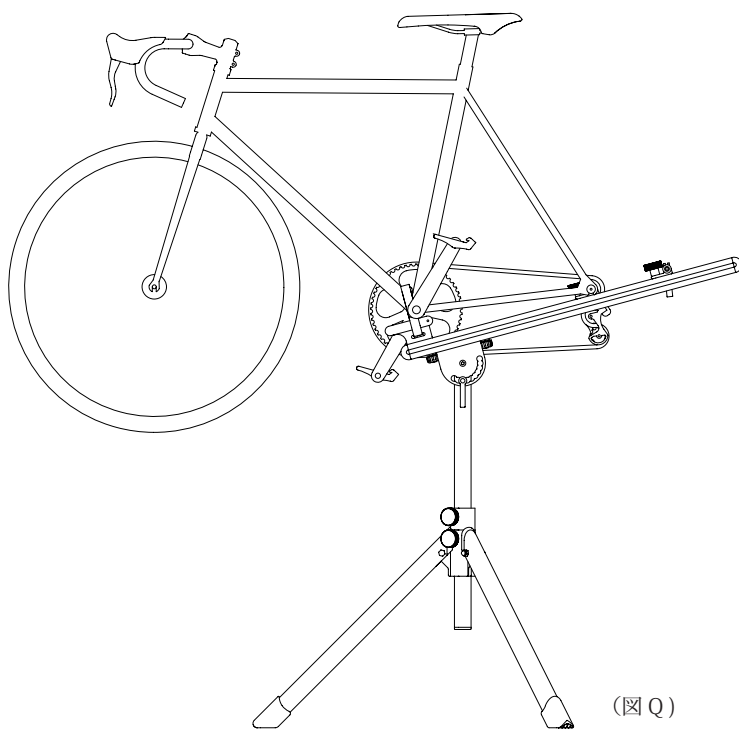
(図 O)

前フォークで保持している状態



(図 P)

フレームリアエンドで保持している状態



(図 Q)